研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
C-540		20-316	慶應義塾大学　加藤眞三

題名（原題／訳）

Interleukin-22 in alcoholic hepatitis and beyond
アルコール性肝炎におけるインターロイキン-22 とその後

執筆者

Xiaogang Xiang, Seonghwan Hwang, Dechun Feng, Vijay H Shah, Bin Gao

掲載誌

Hepatol Int. 2020 Sep;14(5):667-676. doi: 10.1007/s12072-020-10082-6.

キーワード	PMID
急性慢性肝不全、アルコール性肝疾患、炎症、肝再生、非アルコール性脂肪性肝炎	32892258

要　旨

アルコール性肝炎（AH）は，長期にわたる過度のアルコール摂取歴や最近の大量飲酒歴のある患者において，黄疸と進行性炎症性肝障害を特徴とする臨床症候群である。重症のアルコール性肝炎は、生命を脅かすアルコール関連肝疾患の一形態であり、初診時から 1 ヵ月後の短期死亡率は約 30～50％と高い。AH の発症と進行には、多くの炎症性メディエーター、代謝経路、転写因子、エピジェネティック因子が関連していることが示唆されている。重度の AH 患者の肝不全や死亡率には、肝細胞死、炎症、肝再生障害などいくつかの要因が関与していると考えられる。AH の病態は過去 50 年間に広く研究され、多くの治療標的が特定されてきたが、AH に対する新しい治療薬の開発は成功していない。この総説では、インターロイキン-22（IL-22）の生物学について、また、最近開発された慢性＋ビンジエタノール摂取、急性-慢性肝不全、C-X-C モチーフケモカインリガンド 1＋高脂肪食誘発非アルコール性脂肪肝炎などのモデルを含む多くの前臨床モデルにおいて、肝障害を防ぐための抗アポトーシス、抗線維化、抗酸化、抗細菌感染、再生刺激などの役割について論じる。最後に、AH の治療のための IL-22 の臨床試験についても議論し、AH の患者にいくつかの有望な効果を示した。